

最高の状態に

ピペット

を保つには

清潔なピペットは幸せ

ピペットは実験室で当たり前のように、よく使用されているため、そのありがたみが忘れられがちです。適切なお手入れとメンテナンスをしなければ、ピペットの精度が下がったり、サンプルが汚染されたりすることがあります。この種の失敗や不満の原因を予防する最善の方法は、ピペットの洗浄とメンテナンスを定期的に行うことです。

月1回

リークテストを行い、吐出量を確認して、ピペットが意図したとおりに動作しているかを確認します。ピペットの正確性と再現性が仕様の範囲内でない場合は、校正を行う必要があります。

毎日

ピペットの外側を、70%エタノールで湿らせた、糸くずの出ない布で拭きます。他の除染液を使用する場合は、ピペットとその除染液との化学的適合性を確認してください。このステップを毎日行うことで、ワークスペースを清潔に保つことができます。

年1回 ステップ 1

INTRGRAウェブサイトの該当製品ページから「製品価格表」をダウンロードし、希望する校正サービスの内容を確認させます。

ピストン

Oリング

ステップ 2

同じページから「ピペット校正・修理依頼書」をダウンロード、必要事項を記入したのちプリントアウトし、校正したいピペットと一緒に、インテグラが業務提携している日本校正センター(JCC)へ送付します。その後、JCCによるピペットの分解清掃、Oリング等の交換、破損箇所があれば修理、そしてキャリブレーションが実施されます。

*12.5µl、50µl、125µl等の小容量ピペットにはOリングは付いていません。

INTEGRA

www.integra-biosciences.com

コンタミネーションへの対応

コンタミはいつでも起こり得るので、ピペットの完全性、正確性を維持し、サンプルのクロスコンタミを避けるためには、さらなる除染作業が必要になります。

汚染物質	除染液
水溶液	70% エタノール
有機溶媒	界面活性剤
放射性溶液	高強度放射能除染液
タンパク質	界面活性剤 (アルコールはタンパク質を凝固させるので使用しない!)
RNase	95%エタノールに浸し、3%過酸化水素にさらに10分間浸した後、蒸留水で拭き取る。
DNA/RNA	10%漂白剤で拭き、さらにイソプロピルアルコールで拭き取る。



コンタミの種類によって、必要となる洗浄液の種類も異なります。洗浄後、ピペットを70%エタノールで拭き、自然乾燥させてください。

お手入れやメンテナンスとは別に、最高の正確性を確保するために、ピペット操作のベストプラクティスに常に従う必要があります。少なくとも12ヶ月おきに校正を行うことにより、ピペットを最高の状態で使用することができます。ピペットの洗浄、メンテナンス、定期点検、校正を行うことで、ピペットの精度が長期間保てるだけでなく、実験室のメンバーが作業ミスやコンタミから守られます。